

たのしい野菜づくり

1. 家庭菜園は、「土づくり」から

作物を健康に育てるためには、土をつくることから始めなければなりません。それには堆肥など有機物を施すことが大切です。耕耘は土を軟らかくし、土の中に十分な空気を含ませ、水分を保つために役立ちます。

さとらんの畑は、春に堆肥を入れ、トラクターで畑を耕しています。畑の利用にあたっては、大きな土塊を砕く程度ですぐに利用できます。目の細かなフルイで土を通すのは止めましょう。土は大小の塊が混じっている方が、通気や水はけがよく、野菜の根張りが良くなります。

2. 肥料について

私たちの身体の成長維持及び代謝のためにタンパク質やビタミンなどの栄養が必要のように、野菜にもいろいろな栄養が必要です。野菜生育のための栄養（成分）は、すでに土が持っているものと肥料の施用によって供給されます。

肥料は①有機質肥料（けいふん、米ヌカ、骨粉など）と②化学肥料（単肥「硫安、過りん酸石灰、硫酸加里」等と化成肥料）及び③複合肥料（チッソ、リンサン、カリのうち2成分以上を含む肥料で、複数の肥料を混合したもの）に分けられます。

有機質肥料は一般に効き目は遅いですが効果が長持ちする特徴があり、化学肥料は効果が早いです。どちらも、施し過ぎないように施用基準（本誌の巻末参照）を守りましょう。少ない肥料は後で追肥出来ますが、多すぎた肥料は土から取り出す方法がなく、肥料負けすることがあります。

また、化学肥料だけでは土が荒れ、固くなってきますので、堆肥や有機質肥料と合わせて施します。

作物の生育に特に必要な成分は、チッソ、リンサン、カリで「肥料の三要素」といいます。このほかにカルシウム、マグネシウム、微量元素（ホウ素、鉄、マンガン、モリブデン）などがあります。

肥料を使う場合「肥料の三要素」がほぼ等量（%）含む化成肥料及び複合肥料が各種野菜に使用して便利です。また、肥料の袋に果菜用、根菜用などの表示があるものもありますが、表示以外の野菜にも使用出来ますので、野菜栽培相談員に確認して下さい。

もう一度整理しますと、

ア、 肥料の原料による分け方

① 有機質肥料

鶏ふん、油かす、魚かす、骨粉、米ぬか など

② 化学肥料（有機質を含まない単肥及び化成肥料）

イ、 肥料の三要素数による分け方

① 単肥 （1つの要素しか含まない。化学肥料のみ）

窒素肥料：尿素、硫安、塩安 など

リン酸肥料：過リン酸石灰（過石）、ようりん など

カリ肥料：硫酸カリ、塩化カリ など

② 複合肥料（窒素、リン酸、カリの三要素のうち2つ以上の要素を含む）

○ 化成肥料（複数の肥料を混合し、化学的加工を加えて1つの粒にした）

○ 配合肥料（複数の肥料を単に混ぜ合わせたもの）

『酸性土の改良』は石灰（カルシウム）施用

土が酸性になると根の伸びや肥料の効きが悪くなり、良い野菜作りが出来なくなります。野菜に適する土は微酸性で pH（ペーハー）6～6.5 に保つことが必要です。幸い、市民農園の土はほぼ適当な pH になっていますので、この酸度を維持することにしましょう。そのために必要な石灰施用量はつぎのいずれかです。

- ① 炭カル（炭酸カルシウム）100 g/1 m² pH 維持のみ
- ② 苦土炭カル（苦土石灰）100 g/1 m² pH 維持、苦土補給
- ③ ようりん（りん酸資材）100 g/1 m² pH 維持、苦土とリン酸、ミネラル補給

『肥料の三要素』の役割

① チッソ(窒素)：N

葉肥(はごえ)ともよばれ、葉を大きくし緑色を濃くします。どの野菜にも必要ですが、キャベツやホウレンソウ草などの葉ものには大切な要素です。不足すると葉の緑色が薄くなり生育が悪くなりますが、多すぎても軟弱になり、実ものでは果実のつきがわるくなることもあります。対策としては、一度に施さず、追肥で補うようにします。

② リンサン(燐酸)：P

実肥(みごえ)ともよばれ、花や果実のつきをよくしたり、野菜を丈夫にする働きがあり、不足すると生育が遅れ、果実の味が悪くなります。

③ カリ(加里)：K

根肥(ねごえ)とも呼ばれ、茎や葉を丈夫にし、病気や害虫に対する抵抗力を高め、根の発育を良くする働きがあります。

※ 雨が降った直後は、畑がぬかるようなら、作業はやめましょう。土を固くしてしまいます。

3.肥料のやり方

① 「肥料の量」について

これは多ければよいというわけではありません。長い間の試験研究や農家での経験から、一定水準の収量や品質を得るための肥料の量が作物ごと、地域ごとにおおよそ決まっています。これは施肥基準とよばれており、なかでも窒素の施肥量が最も重要なものとされています。窒素は作物生育の鍵を握る重要な要素だからです。施肥基準に基づく肥料の量は次のように算出します。

今、チッソの施肥基準値が12g/1 m²とします。窒素12gを化成肥料(8-8-8)

(チッソ、リンサン、カリが各8%含む肥料銘柄)でまかなうには $12 \div 0.08 = 120$ gの肥料が必要となります。

後に紹介する作物ごとの施肥量はこのように計算したものです。なお、施肥量は、一般にチッソの施肥基準にあわせて決めています。従って、リンサンやカリの施肥基準とずれることもあります。しかし、それらは家庭菜園では大きな問題になりません。

②「いつやるか、どんな配分でやるか」について

肥料をやる時期ですが、基本的には、作物の種を播いたり、苗を移植するときにやる「元肥」と、作物の生育をみて途中でやる「追肥」の2通りがあります。それぞれへの肥料の配分は、作物の養分吸収の特徴にあわせる必要があります。

③「施し方」について

肥料を畑の全面にまいて土とまぜ合わせる全面施肥と、苗ものを植える穴に施す植え穴施肥、それに植え溝にすじ状に施す作状施肥などがあります。

植え穴と作状施肥は作物の根に近い部分に施用されますので、肥料ヤケを起こすことがありますので、特に初心者の場合は各野菜ともに全面施用するのが安全です。

4.言葉の説明

- ① うね幅(うねはば)、条間(じょうかん)～種をまいたり、苗を植える列の間隔
- ② 株間(かぶま)～ うね上の株と株の間隔
- ③ 基肥(もとひ)～ 種を蒔いたり苗を植える前に施す肥料
- ④ 追肥(ついひ)～ 生育途中で施す肥料

ひとくちメモーその1

畦とベットの作り方

平畦栽培：鍬で浅い畦を作って種まきや苗植えをしたら、地面をならして均一する方法です。

高畦栽培：地面が凸になるように畦を作り、そこに種まきや苗植えをします。

ベット栽培：ビニールマルチやトンネルをするために、少し高めで、幅1mほどのベット(床)を作りそこに種まきや苗植えをします。

注：水はけも良い畑は、湿害を避けるための高畦は必要ありません。平畦の方が狭い地面を効率良く使えます。

5.種まきと種の選び方

野菜の中には直接畑に種をまいたほうが良いものと、苗を買って植えた方が良いものがあります。

種を買う場合は通常袋詰めになっており、中身がよくわからないので、お店で相談し、購入するのが良いでしょう。

種をまいたあと土をかけ、手や足でしっかりとおさえて土と種とを密着させます。かける土は種の直径の2～3倍の厚さ、約1 cmが適当です。

家庭菜園では深く種まきをして発芽不良になる場合がよくみられますので注意して下さい。

レタス等は発芽に光りが必要なので土かけが厚いと発芽しないものがありますので注意が必要です。

主な野菜の生育日数及び栽培暦

生育日数が 25～30 日程度で、3～4作が可能なもの	ラディッシュ、ダイコンナ、コマツナ、刈タイナ
生育日数が 35 日前後で、3 作が可能なもの	ハウレンソウ、シュンギク
生育日数が 60 日前後で、2 作が可能なもの	ダイコン、刈ミツバ、カブ、チンゲンサイ
生育日数が長く、1 作しかできないもの	果菜類 キュウリ、トマト、ナス、ピーマン ナンバン、シシトウ、カボチャ スイートコーン 根菜類 ニンジン、バレイショ 葉菜類 レタス、ハクサイ、キャベツ マメ類 エダマメ、サヤエンドウ、サイトウ

6.苗の植え方

苗の選び方

苗を購入する場合も種と同様に種苗店などで相談し、購入するほうが良いでしょう。良い苗を見分けるには次のことに注意して下さい。

<良い苗>

- ① 茎が太くがっちりしているもの
- ② 葉は大きく厚いもの
- ③ 節間のつまって短いもの
- ④ 根の張の良いもの

<悪い苗>

- ① 茎が細く背丈が高いもの
- ② 店舗に置かれて、葉の黄化し始めたもの、バーゲンセールのものは要注意

植え方の注意

- ① 根についている土をできるだけ落とさないこと。
- ② 植えるまで根を乾燥させないこと。(定植前日にたっぷり水をやっておく)
- ③ 極端な浅植え、深植えをしないこと。
- ④ 接木苗は接木部分より深くは絶対植えないこと。
- ⑤ 苗の根と周囲の土をしっかりとおさえて、苗を安定させること。

種が向いているもの、苗が向いているもの

直接畑に種を播いた方がよいもの	葉物類・根菜類
苗を買って植えた方がよいもの	果菜類
どちらでもよいもの	葉菜類・マメ類

7.各種野菜の作り方

① 野菜の肥料の効かせ方タイプ

生育初期に多く吸収するもの、生育期間中にコンスタントに吸収するもの、生育後期に多く吸収するものの3つのグループに分けられます。養分を吸収する時期によって、元肥の量、追肥の量、回数が違ってきます。(参考資料 巻末)

- ② ここでの化成肥料の施肥量はエダマメ以外は「化成肥料(8:8:8)」を使用した場合です。購入する肥料によって量を調整しましょう。(参考資料、巻末)
- ③ pH 矯正には、炭カル、苦土炭カル(苦土石灰)、ようりん等が使用出来ます。

●(1)エダマメ(マメ科)●

エダマメは、ビールのつまみとして人気があり、北海道で作りやすい野菜の一つです。

畑の準備

1㎡当たり苦土石灰等を100g、完熟堆肥2kg、窒素成分の少ない豆用化成肥料(3-10-10)70gを全面施肥し、よく耕します。

種まき

時期は早生、中生種では5月中旬～下旬、晩生種は5月下旬～6月上旬です。うね幅60cm、株間25cmで、1ヶ所に3粒ずつ点まきします。

欠株対策として、ポットには種、育苗し、定植する方法もあります。

管理

10cm くらいの草丈に育ったところ間引いて2本仕立てとします。

収穫

収穫は早・中生種で8月中～下旬、晩生種で9月上～10月上旬です。サヤが緑色で、粒が適当な大きさになった時に株ごと抜き取り、サヤをもぎ取るように収穫します。サヤが黄色になると粒が硬くなり甘みも少なくなります。

●(2)キャベツ(アブラナ科)●

生で食べる葉もの野菜といえば、欧米ではレタスが主ですが日本ではキャベツがもっとも多く使われています。また、煮物、漬物としても広く利用される重要な野菜の一つです。

畑の準備

1㎡当たり苦土炭カル等を100g、完熟堆肥2kg、化成肥料(8-8-8)200gを全面施肥し、よく耕します。

植え方

定植時期は5/中〜で条間60cm、株間45cmとし、深植えは病害虫が発生しやすくなり、浅すぎると株元がぐらついてしまいます。葉のつけ根が土にうまらない程度に植えます。

管理

結球始頃に、1㎡当たり化成肥料(8-8-8)70gを株間に追肥します。7月以降はアオムシがつきやすいので発見次第捕殺します。

収穫

球を押さえてみて硬くしまったものから順に収穫します。取りおけると球が割れるので注意してください。

●(3)キュウリ(ウリ科)●

キュウリは、主に生食用、漬け物用として、年中店頭に並んでいます。その6割は、ビニールハウスなどの施設で栽培されています。キュウリは果実の生長が早く、収穫期間が長いので家庭菜園向きの野菜といえます。

畑の準備

1㎡当たり苦土石灰等を100g、完熟堆肥3〜4kg、化成肥料(8-8-8)250gを全面施肥し、よく耕します。

植え方

定植時期は6月上旬〜中旬です。条間60cm、株間90cmとします。支柱も同時に立てます。接木苗は接木部分より深くは絶対植えてはいけません。

管理

支柱はなるべく長い物しっかりと立てます。親つるは先端が垂れ下がらないうちに、次々と紐で結んでいきます。5節までは果実も子づるも摘んで根張りを良くする。仕立て方は親づる1本、または親づる1本、子づる2本の3本仕立てなどがある。

また、ネットを利用すると蔓がからまり安定します(100円ショップのもので十分)。整枝は高さが1.6〜1.8m位になったら先端をつみ取ります。子づるや、孫づるは2葉を残してつみ取ります。収穫がはじまったら、20日間おきに1㎡当たり化成肥料(8-8-8)60gを追肥します。

収 穫

花が咲いてから 10 日くらいで収穫できます。果実は 20cm 前後の長さで収穫しましょう。また、大きくしすぎると株が弱り、成りが悪くなるので早めに収穫するほうが全体としての収量は多くなります。また、成りが悪くなったら摘果して生育を回復させます。

●(4)大根(アブラナ科)●

生でよし、煮てよし、漬けてよし。根も葉も栄養たっぷり。わが国で作付面積、生産量ともに第一位の野菜です。

畑の準備

1 m²当たり苦土石灰等を 100g、完熟堆肥 2kg、化成肥料(8-8-8) 70g を全面施肥し、岐根防止のためにも土とよく混ぜます。大根は地中深く入るため、深く耕します。

ただ、臭いのある未熟堆肥は害虫発生の要因となりますので厳禁です。

種まき

時期は夏どりで 5 月下～、秋どりで 8 月上～中旬です。条間 50cm、株間 2.5cm で 1ヶ所に 2～3 粒ずつ点まきし、やや厚め(1cm～1.5cm)に土をかけます。

春先は晩抽性(抽苔しづらい)品種の選定に注意して下さい。

管 理

本葉 1 枚に育ったところに 2 本に間引き、本葉 2～3 枚の頃、がっちりしたものを選んで 1 本にします。また、除草も間引きに合わせて行います。

収 穫

夏どり栽培は種まきから 50～60 日、秋どり栽培は 60～80 日で収穫します。収穫が遅れると「す」が入ってしまいます。葉のつけねを切ってみて、断面に「す」が入っているなら根にも「す」が入っています。

●(5)ねぎ (ユリ科) ●

ねぎは、暑さにも寒さにも強いので、全国的に栽培されていますが関西以南では葉ねぎ、関東以北(北海道含む)では根深ねぎが多く作られています。

畑の準備

1 m²当たり苦土石灰等を 150g、完熟堆肥 2kg、化成肥料(8-8-8) 150g を全面施肥します。

植え方

時期は 5 月～6 月です。苗は太くて大きく、根の本数の多いものを選び、購入します。苗が大きすぎる時は植え傷みを少なくするために葉を 3 分の 1 程度切り落として植える。と植える作業も楽になり苗は倒れません。

うね幅 90cm、30cm 程度の深い植え溝をほり、白根になる部分が曲がらないように、5cm 間隔に溝の片側に沿って直立に 1 本ずつ(小苗は 2 本ずつ)ならべ、4～5cm 程度に

浅く土をかけます。

管 理

土寄せは生育と平行して3回に分けて行います。1回目は、約30日後に軽く植え溝をくずす程度にします。2回目はさらに30~40日後に行います。

この時もあまり大量に土を寄せないようにします。最後の土寄せは、収穫目標30日位前に行います。この時は思い切って土を多めにかけます。

なお、追肥は1回目と2回目の土寄せの前に、1㎡当たり化成肥料(8-8-8)を40g施します。

収 穫

8/中頃から手ごろな大きさになった物をスコップで根を浮かせてから手で抜いて収穫します。

●(6)スイートコーン(イネ科)●

家庭菜園の中では数少ないイネ科の野菜なので輪作上も重要な品目です。ただ、スイートコーン以外のとうもろこし(ポップコーン等)は植えると他区のスイートコーンと交雑「キセニア」し食味低下の原因となるので栽培しないで下さい。

畑の準備

1㎡当たり苦土石灰等を100g、完熟堆肥4kg、化成肥料(8-8-8)125g、過リン酸石灰25gを全面施肥し、深く耕します。

種まき

時期は5月中旬~6月中旬です。条間50cm、株間30cmで1ヶ所2~3粒ずつの点まきにします。

管 理

発芽し10cm位になったら1本立ちに間引きします。その時に残す株を傷つけないように株元を押さえて、間引く株を横に倒すように抜くか、ハサミを土中に差し込み切り取ります。

雄穂が見え始めた頃、化成肥料(8-8-8)80g程度株間にばたまき水やりをします。分けつは必ずしも除去する必要はありません。

収 穫

収穫の時期は絹糸(けんし、俗にひげとも言う)が出てから25日前後程度です。絹糸が少し褐色に枯れ果粒が黄色になり、つぶすとクリーム状になった頃が適期です。収穫後5~6時間で甘味が落ちてきますので、なるべく早く食べるようにしましょう。

ひとくちメモーその2

マルチング

地面を稲わら・麦からやビニール、ポリエチレンフィルムで覆(おお)うことを“マルチング”といい、①地温の上昇、②水分蒸発を防いで適正な水分保持、③雑草を抑止 ④土壌の膨軟性保持 等の効果があります。

- **透明ポリマルチ**は、光を通すので深くまで地温を上げます。トマト、ナス、ピーマンなどの高い温度を好む野菜に有効ですが雑草の発生を抑えることは出来ません。
- **黒色ポリマルチ**は、雑草抑制に最適で、土壌水分も保持します。地表部の温度はかなり上昇しますが、深い部分は透明マルチほどではありません。

注：市民農園はところにより雑草が多いので**黒色ポリマルチ**をおすすめします。

：フィルムは地面と密着するように中央部をいく分高目にするのがポイントです。

●(7)ニンジン (セリ科)●

ニンジンはカロチンを多く含み、栄養価の高い有色野菜として世界に広く使われている野菜です。

冷涼な気候を好むので、北海道にあった野菜の一つです。

畑の準備

1㎡当たり苦土石灰等を100g、完熟堆肥2kg、化成肥料(8-8-8)150gを全面施肥し、よく耕します。

種まき

時期は5月中旬～6月中旬です。条間30cm、株間7～10cmの間隔で「点まき」にし、ごく薄く1cm程度土をかけます。また、土が乾燥している場合はなかなか発芽しないので水をたっぷりかけます。

管理

発芽までは土を乾燥させないように気をつけてください。発芽して株がこみあってきたら、本葉2～3枚の頃と4枚の頃の2回に分けて間引きと土寄せをし、1本立ちとします。

収穫

種まきから3ヶ月ほどすぎると食べられますので、肩の直径の大きなものから収穫しましょう。

若いうちは、葉もおひたしや天ぷらなどにして食べることができます。

●(8)ナス (ナス科)●

ナスは西洋でも多く作られていますが、日本では古くから食生活に深く入り込み、煮物、焼きナス、揚げ物のほか、漬物などに広く利用されています。

畑の準備

1㎡当たり苦土石灰等を150g、完熟堆肥3～4kg、化成肥料(8-8-8)200g、過リン酸石灰25gを全面施肥し、よく耕します。

植え方

苗作りには長い日数(80日)かかるので苗を購入するのがよいでしょう。時期は6月上旬～6月中旬です。条間60cm、株間50～60cmとします。

接木苗は接木部分より深く植えては絶対いけません。また、台木より、トゲのある葉を持つ枝が出る場合があるので早めに摘み取ります。つぼみが付いている苗を植えます。

管理

風に倒されやすいので、支柱を立ててヒモでしばります。根がつくと、わき芽が盛んに伸び出します。最初の花から下2枚の葉のわき芽を残して、それから下の葉のわき芽は早めに摘み取ります。主枝と残した2本のわき芽を伸ばして3本仕立てとします。収穫がはじまったら30日間おきに1㎡当たり化成肥料(8-8-8)25gを追肥します。

収穫

収穫の目安は開花後2週間位がよいでしょう。放っておくと大きくなり、皮が硬くなって味も落ちてしまいます。ハサミでへたの先から切って収穫します。

収穫始めのころは果実をあまり大きくすると、株が弱るので早めに収穫する方がよいでしょう。

●(9)ピーマン (ナス科)●

ピーマンは戦後新しい野菜として急速に普及したものの一つで、油いため、てんぷら、肉つめなど和食、洋食、中華料理の、いずれにもよくあい広く利用されています。

高い気温を好みますが、病害虫の被害は比較的少なく、栽培しやすい野菜です。

畑の準備

1㎡当たり苦土石灰等を100g、完熟堆肥2～3kg、化成肥料(8-8-8)130gを全面施肥し、よく耕します。

植え方

時期は5月下旬～6月上旬です。畝幅90cm(1条植え)、株間50cmとします。

管理

支柱は早めに立てます。最初の花より下の葉のわき芽は早いうちに全部摘みとり、2節目までに出る枝を主枝として3～4本仕立てとします。1番花は花のうちに摘み取ります。

収穫がはじまったら、30日間隔で1㎡当たり化成肥料(8-8-8)を60g追肥します。

収穫

株の負担を軽くするため大きくなったものから、早めに収穫します。

●(10)ホウレン草 (アカザ科)●

ホウレン草というと、「ボパイ」→「栄養価」と連想する人が多いのではないのでしょうか。事実、ビタミン類や鉄、カルシウムなどのミネラル分を多く含み、栄養価値の高い緑色野菜として知られています。北海道でも作りやすい野菜です。

畑の準備

1㎡当たり苦土石灰等を150g、完熟堆肥2kg、化成肥料(8-8-8)100g、過リン酸石灰40gを全面施肥し、よく耕します。

種まき

4月中～8月頃までいつでも種をまくことができますが、夏の暑い時期は発芽が悪くなったり、病気が発生しやすい傾向にあります。条間20cm、株間5～7cmで点まきかすじまきにします。種をまいた後、1cm程土をかけてしっかり押さえつけた後十分に水をかけます。

日照時間が長くなる時期(春)にはトウが立ち易くなるので品種の選定が大事です。

管 理

本葉が出始めたころ1回目の間引きをします。2回目は本葉3～4枚になったところに、5～7cmの間隔になるように1本立てとします。

収 穫

品種により差がありますが、春まきで約45日、夏まきでは35日前後で収穫できます。草丈は25～27cm位の時が収穫適期です。

●(11)レタス (キク科)●

現在、レタスは生食用野菜の代表的存在ですが、日本では戦後昭和30年頃から急激に普及した野菜です。

レタスは冷涼な気候を好むので、北海道では作りやすい野菜です。とりたての新鮮な葉が最もおいしいので、家庭菜園でぜひ栽培したい野菜です。

畑の準備

1㎡当たり苦土炭カル等を150g、完熟堆肥3kg、化成肥料(8-8-8)150gを全面施肥し、よく耕します。

植え方

苗には定植前日に十分にかん水しておきます。定植時期は5/上～で条間50cm、株間30cmで株元が地表よりやや高めになるように植えます。

管 理

生育初期に畑が乾燥すると、葉の生長が十分行われないので、球のでき始めまでは乾燥しないようにかん水します。生育が不良の場合は球ができ始めたら1㎡当たり化成肥料(8-8-8)40g程度を株間に追肥します。

収 穫

品種によっても違いますが50日～60日で収穫できます。

収穫期は球のしまりぐあいで判定します。

時期は球の頭を押さえてみ8部結球程度の方が柔らかくて美味しい。

●(12)生食用トマト (ナス科) ●

トマトは栄養に富む代表的な野菜です。そして、トマトほど畑で完熟した新鮮な果物と、市販品との味の差の大きい野菜はないでしょう。家庭菜園ではぜひ真っ赤になった完熟トマトの味を楽しんでください。

畑の準備

1㎡当たり苦土炭カル等を150g、完熟堆肥2～3kg、化成肥料(8-8-8)130g、過リン酸石灰50g、硫酸カリ60gを全面施肥し、よく耕します。

植え方

苗は葉が7～8枚で大きく、茎が太く、節間の短い花芽のしっかりついたものを選びます。条間60～70cm、株間40cm、支柱(1.8m)を立て、紐などでトマトが倒れないように結びます。

管 理

生長を始めると次々とわき芽が出てきますので、わき芽は小さいうちにつみとります。主となる茎が伸びるにしたがって、支柱にひもで結び付けておきます。

トマトは7～9節に最初の花房をつけ、その後は3葉ごとに花房をつけながら生長します。なお、第一花房と第二花房の開花時期は温度が低く、蜂が少ないためは着果しづらい場合があります。ホルモン剤(トマトーン100倍液)を3～4花咲いた時に花房にスプレーすると着果が安定し、果実も大きくなります。

各果房ごとに着果を確認して1㎡当たり化成肥料(8-8-8)を50gづつ追肥し、水やりします。

収 穫

開花してから50～60日で収穫できます。

●(13)馬鈴しょ (ナス科) ●

家庭菜園の定番であり、時期を問わず愛食され、最も親しみのある野菜の1つといえます。他の野菜に比較し長期保存も可能です。是非チャレンジして下さい。

畑の準備

1㎡当たり化成肥料(8-8-8)100g、過リン酸石灰50gを全面施肥し、よく耕します。ただ、他の野菜のように苦土石灰等と堆肥はそうか病予防のため施用しません。

種イモの準備

40～50 g 程度の種イモを使用する。種イモが大きい場合は植え付けの数日前に切断するが、縦切りが基本で各切りイモに芽が2つ以上つくようにします。

植え付け

5月上～5月下旬、うね幅 80 c m、株間 30 c m で 5～6 c m の深さに植えます。

うね幅が狭いと培土が出来にくくなりますので注意して下さい。

管理

最大の病害は「えき病」で、小粒イモ、未熟イモの大きな原因になるので7月に入ったら10日間隔で防除を何回か実施します。

6月中旬頃に緑化モ防止のため必ず培土（高く土寄せ）を実施します。

収穫

葉色が黄色味を帯びてから、天気の良い日に収穫します。収穫したイモは表面を乾燥させてから保存します。（水分があると腐敗の原因になります）

8. 野菜栽培の晩限

類	品 目	は種晩限	植付け晩限	収穫期
豆 類	さやいんげん	7月15日	—	9月30日
	さやえんどう	7月10日	—	9月30日
根菜類	だいこん	8月15日	—	10月31日
	かぶ	8月25日	—	10月20日
葉茎菜類	はくさい移植	7月31日	8月20日	10月20日
	はくさい直播	7月31日	—	11月 5日
	レタス	7月10日	8月 5日	10月10日
	サラダ菜	9月15日	—	10月25日
	小松菜	9月15日	—	10月25日
	春菊	8月31日	—	10月15日
	チンゲンサイ	8月31日	—	10月15日
	野沢菜	9月 5日	—	10月31日
	からしな	8月31日	—	10月31日
	ほうれんそう	8月31日	—	10月20日
	ブロッコリー	7月 5日	7月31日	10月31日
	カリフラワー	7月 5日	7月25日	10月25日
	ながねぎ	4月25日	7月 5日	10月31日

9. 野菜の施肥目安(道施肥基準より)

※本表は成分量で表示している

類	作物名	1㎡当たりの施肥量(基肥g/㎡)			分肥・追肥(追肥は窒素・加里とあるが、化成肥料でも可)	施肥のポイント
		窒素(N)	りん酸(P)	加里(K)		
果菜類	トマト	10	20	40	各果房ほ2～3番果がピンポン玉大になった時点で窒素、加里各4g	基肥が多いと茎が太り果実がつきづらくなるので追肥で補う方がよい
	キュウリ	20	15	20	第1回目収穫始めと以降20日ごとに、窒素、加里各5g追肥	途中で肥切れさせないこと
	なす	15	20	10	第1回目収穫始めと以降30日ごとに、窒素、加里各2g	お礼肥を忘れないように
	かぼちゃ	4	10	5	着果揃い期に窒素、加里各4g	分施はつるの伸びるところ全面に
	えだまめ	2	10	8	—	根粒が窒素を供給するので少肥
	スイートコーン	9 (全層施肥)	20	13	4～5葉期に窒素5g	種が肥料にふれると発芽障害を生じるので、基肥を抑える
	さやいんげん	7	10	8	—	つる有りいんげんは基肥9g
	さやえんどう	4	10	10	収穫が始まったら追肥、1回に窒素2g、10日間おきに	肥切れさせないように、こまめに追肥
	すいか	5	15	8	着果揃い後に窒素、加里各4g	基肥をおさえ、着果確認後追肥
	メロン	6	20	15	着果揃い後に窒素、加里各4g	基肥をおさえ、着果確認後追肥
	いちご	8	10	8	融雪後に窒素5g、加里6g	窒素過多で先白果になる場合あり 基肥の効果が良い、ツル酸が少ないと青立ちとなったり、球肥大が不良となる
葉菜類	たまねぎ	15	15	15	りん酸の少ないほ場ではりん酸分を多めに施用する。	—
	ねぎ	10	20	12	培土前に窒素、加里6g	—
	はくさい	16	18	18	結球始め前に、窒素、加里各6g	追肥が多すぎると縁ぐされ症が発生しやすくなる。少ないと黒斑症などにかかりやすい
	キャベツ	16	14	12	結球始め前に、窒素、加里各6g	追肥が多すぎると縁ぐされ症が発生しやすくなる
	ほうれんそう	9	15	8	(トンネル雨除け栽培の基準)	収穫時に葉の緑色が劣るのは窒素不足
	にんにく	10	25	9	融雪直後に窒素、加里各8g	春追肥は効果が高い
	にら定植畑	8	16	4	収穫終了時に窒素、加里各5g	基肥は収穫打ち切り後、株間に行う
	にら収穫畑	5	10	4	8、9月に2回窒素、加里各5～7g	—
	みつば	15	20	15	—	—
	しゅんぎく	15	10	15	最終間引き後と摘み取り後に窒素、加里各2～4gを3回	最終間引き時に通路に追肥して株元に土寄せ
根菜類	だいこん	5	8	8	—	収穫時に下葉2～3枚くらい黄化する程度が窒素の適量となる(窒素少ないとス入り、多すぎると病害にかかりやすい)
	にんじん	12	15	15	肥料が流亡し易い畑は本葉4～5葉ころ(間引き後)窒素・加里各3g	生育後半に肥料切れすると黒葉枯病が発生しやすくなる
	ごぼう	18	40	18	—	深耕部へ肥料が均一に混ざるように施用する
	かぶ	12	15	12	—	窒素が多いと茎葉が繁茂して、根部の肥大が劣る。
	ながいも	15	30	12	7月中旬までに窒素・加里各5g	追肥時期が遅れると、すり下ろしのとき褐変しやすくなる。
	ばれいしょ	6～8	18	10～12	—	窒素が多すぎると、倒伏しやすくなり、疫病にかかりやすい。でん粉価も低下する。
洋菜類	ピーマン	10	20	10	収穫始と以降30日ごとに窒素、加里各5g	—
	レタス	12	12	14	—	—
	サニーレタス	18	14	16	—	—
	セルリー	30	30	24	定植後20～30日おきに窒素、加里各6～7gを2～3回	肥切れすると品質が極端に劣るので20日ごとに1㎡に一握りずつ追肥
	カリフラワー	10	14	10	着蕾始め期に窒素、加里各8g	植え付けの1カ月くらい後に追肥
	ブロッコリー	4	14	4	着蕾始め期に窒素、加里各8g	植え付けの1カ月くらい後に追肥
	グリーンアスパラ	20～24	15	15	基肥は収穫終了時に施用。融雪直後に窒素5g、加里10g施用	根が広がっていくので広く全面に施用

注)堆肥は1㎡あたり3～5kgにとどめる。これ以上堆肥を用いるときは、堆肥1kgあたり窒素1g・加里3gを施肥量から差し引くこと

